

2016年5月21日(土)

みやぎ奨学金問題ネットワーク・シンポジウム

みやぎ奨学金問題ネットワーク学生奨学金調査(結果報告)¹

調査・分析担当：東北学院大学経済学部共生社会経済学科 佐藤 滋

【調査対象及び時期】

- ・ 調査対象：宮城県内の三つの私立大学。1～4年生。母数は537名²。
- ・ 調査期間：2015年11、12月

【結果から浮かび上がってくる生活困窮学生の姿】

パターン①：家庭の困窮・自宅外→奨学金の多額の借り入れ(→返済による生活困窮)

パターン②：家庭の困窮・自宅外→奨学金の返済不安→奨学金の借入額を抑制→アルバイト

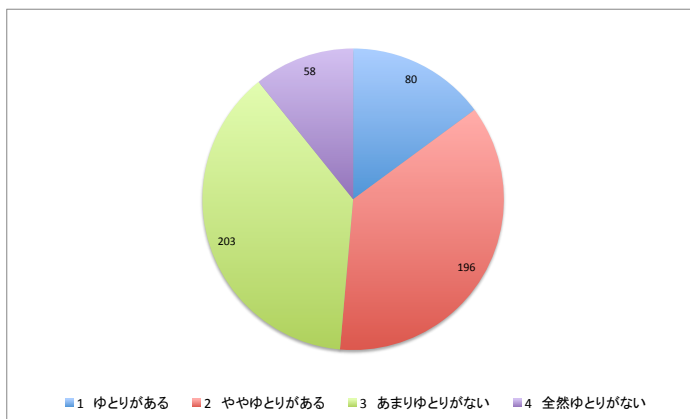
依存→勉強時間の喪失(→労働市場での不利→生活困窮)

【質問項目及び結果】

1. 現在住んでいるところ

自宅=331名、自宅外(アパート・寮等)=185名

2. おうちの暮らし向き(経済状況)にはゆとりがありますか。(○は1つ)



→およそ半数の学生が「経済状況に余裕がない」と答えている。

¹ 宮城学院女子大学の田中史朗先生と日本基督教団仙台市民教会の川上直哉牧師には、それぞれ宮城学院女子大学、白百合女子大学でのアンケート調査を行ううへでご尽力頂いた。ここに記して感謝したい。

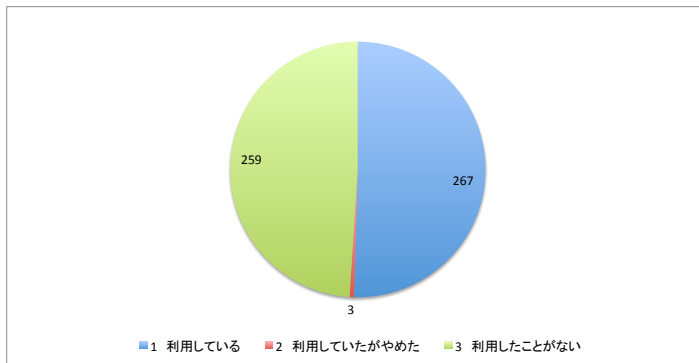
² わずかに未記入があったこと、また、該当項目ではないにも関わらず質問に答えた学生が若干数見られたため、各設問の間で数値の不一致が存在する。

3. 学費は誰が払っていますか。(○は1つ)

保護者=460名、保護者と自分=53、自分=24名。

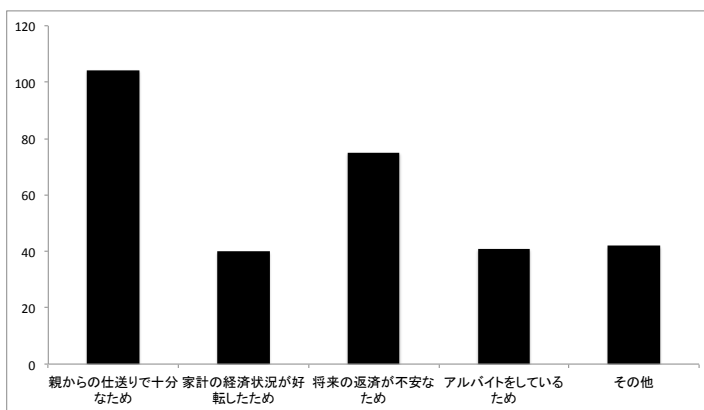
→多くが保護者と答えているものの、学費を自ら捻出している学生の数は無視できない。

4. あなたは大学生になってから奨学金を利用したことがありますか。(○は1つ)



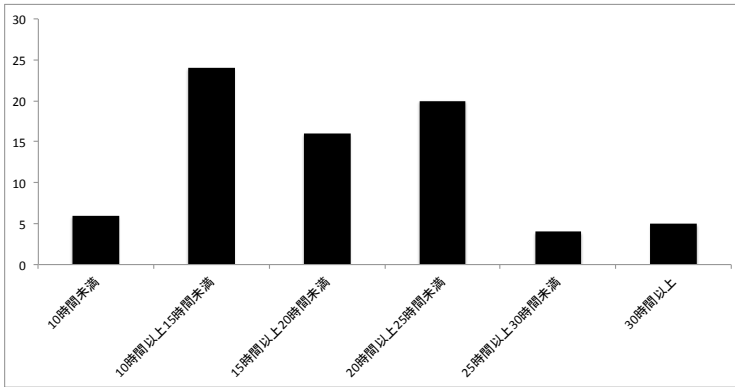
→およそ**半数の学生が奨学金を利用**。全国の動向とも一致(日本学生支援機構(2014)『学生生活調査』)。奨学金を利用する学生は年々上昇傾向にあるが、これは**学費の急速な上昇**のため。学費はここ40年の間で、**国立大学では約20倍**(1975年27,847円→2015年53万7857円。)、**私立大学では約5倍に**(1975年:18万2677円→2014年86万4384円)。

5. 「4」で、「利用していたがやめた」「利用したことがない」と答えた方にお聞きします。奨学金を利用しなかった理由は何ですか。(複数回答)



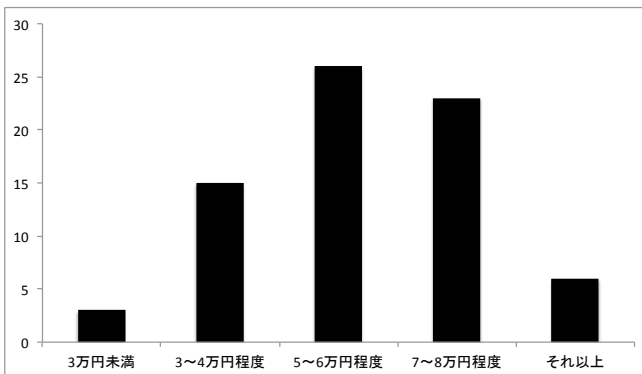
→「奨学金を利用していない=生活に問題がない」ということを意味しない。奨学金を借りない代わりに、**アルバイト漬けの生活**を送らざるを得ない学生も存在。これは、「**将来の返済が不安**」なため。

6. 「5」で「アルバイトをしているため」と答えた方にお聞きします。アルバイトは1週間で何時間程度行っていますか? (○は1つ)



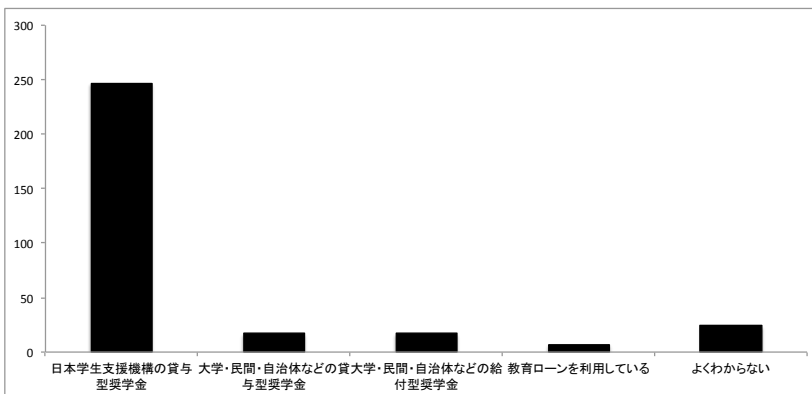
→週に「20 時間以上」のアルバイトを行っている学生は少なくない。仮に、週 3～4 日ほどアルバイトを行うとして、こうした学生は日に 5 時間以上労働していることになる。勉学の時間は極めて少なく、大きな社会的損失につながっている。

7. 「アルバイトをしているため」と答えた方にお聞きします。アルバイトで毎月平均どれくらいの収入がありますか？（○は1つ）



→「5～6 万円以上」のアルバイト収入を得る学生が多い。これらの学生の多くは、「遊びのため」ではなく、生活費の補てんのためにアルバイトを行っているものと考えられる。

8. どのような種類の奨学金を利用していますか。（複数回答）



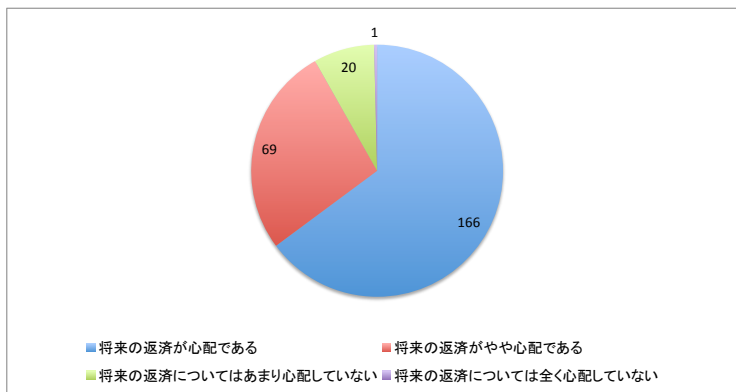
→多くの学生が「日本学生支援機構の『貸与型』奨学金」を借りている。また、なかには複数の奨学金を同時に借りている学生も。

9. 「日本学生支援機構の貸与型奨学金を利用している」と答えた方にお聞きします。どういった種類の奨学金を利用していますか。(○は1つ)

第一種奨学金(無利息) = 83名、第二種奨学金(利息付) = 152名、第一種奨学金と第二種奨学金の併用 = 18名。

→奨学金を借りている学生のうち、**7割弱が利息付の奨学金**を利用しており、返済の負担が懸念される。

10. 「日本学生支援機構の貸与型奨学金」「大学、民間、自治体などの貸与型奨学金」「教育ローン」を利用していると答えた方にお聞きします。将来の奨学金の返済について、どのように感じていますか。(○は1つ)



→「**将来の返済が心配**」と答えた学生は**9割超**。大学進学そのものが将来の困窮リスクを高めかねない状況を、学生は敏感に察知している。

11. 1ヶ月の奨学金の借入額はおおよそいくらですか。(複数の借り入れ先がある場合は、合計の金額をお答えください)

中央値 = 50,000円。 **最大値 = 120,000円**。

→**返済が極めて困難になると考えられる「8万円以上」を借り入れている学生数は58名**。全体(有効回答者219名)のうち、3割弱。

→シミュレーション: 利息付きの第二種奨学金を4年間、機関保証制度を利用して借り入れたとする。借入額は月額8万円(・12万円)。また、入学時特別増額制度を30万円分利用し、利率3%とすると、**返還総額は557万8795円(・816万2654円)**。月々の返済は2万3000円(・3万4000円)ほどで、返済期間は20年。手取り15万円の給料を得る

と仮定した場合、これらの多くの学生は月々の返済は極めて困難か、不可能。

12. 現在借りている奨学金の額について、学生生活を送るうえでどのように感じていますか。

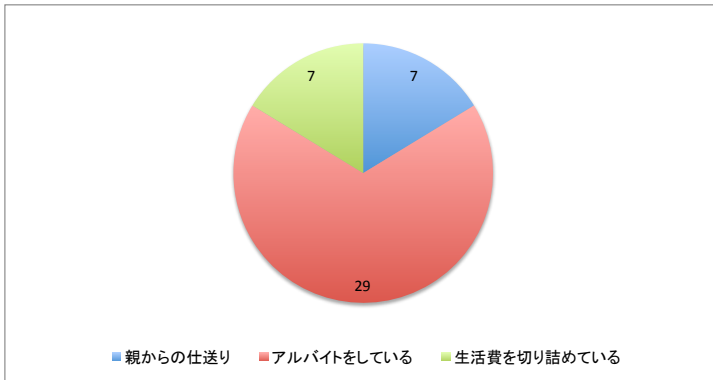
(○は1つ)

十分に足りている=78名、それなりに足りている=119名、あまり足りていない=53名、全く足りていない=15名。

→返済の問題をひとまず置けば、奨学金が多くの学生の助けになっていることが分かる。

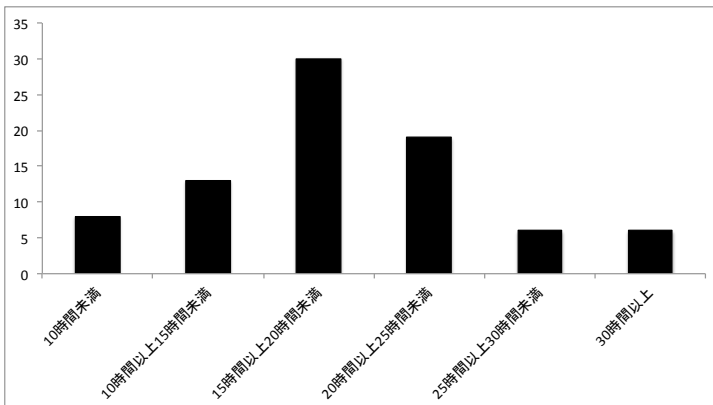
ただし、奨学金を借り入れているにもかかわらず、不足を訴える学生の数も無視できない。

13. 「12」で「あまり足りていない」「全く足りていない」と答えた方にお聞きします。生活費の不足をどのように補っていますか。



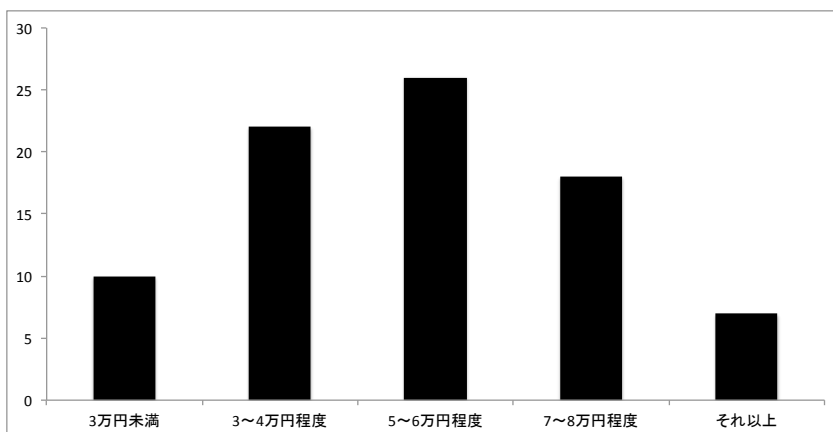
→奨学金の借入額が少ないということは、ただちに生活上の問題がないことを意味しない。借入額を少額に抑える代わりに、アルバイト漬けの生活を送らざるを得ない学生も存在。大学での学びの機会を喪失させている。

14. 「13」で「アルバイトをしている」と答えた方にお聞きします。アルバイトは1週間で何時間程度行っていますか？



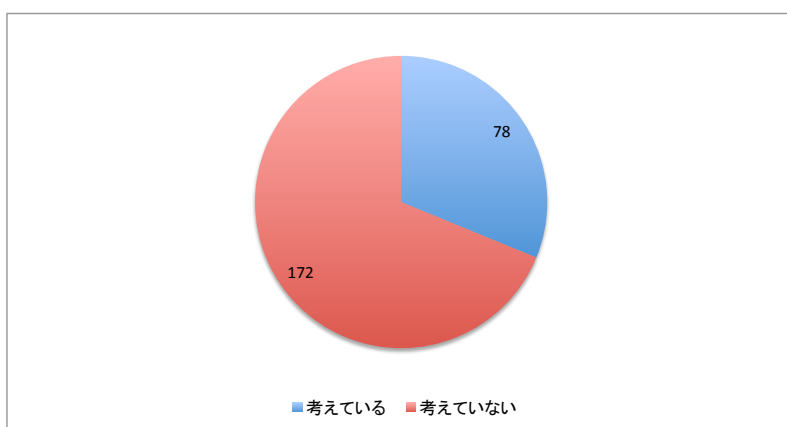
→奨学金を借りているにもかかわらず、週に「20 時間以上」のアルバイトを行っている学生は少なくない。奨学金を借りたとしても、将来の返済不安から奨学金を必要額の上限まで借り入れる学生が少ないためと考えられる。

15. 「13」で「アルバイトをしている」と答えた方にお聞きます。アルバイトで毎月平均どれくらいの収入がありますか？



→奨学金を借りているにもかかわらず、「5~6 万以上」アルバイトで稼ぐ学生は多い。

16. 現在、アルバイトをしている方にお聞きます。アルバイト代を「将来の奨学金の返済にあてる」ことを考えていますか。



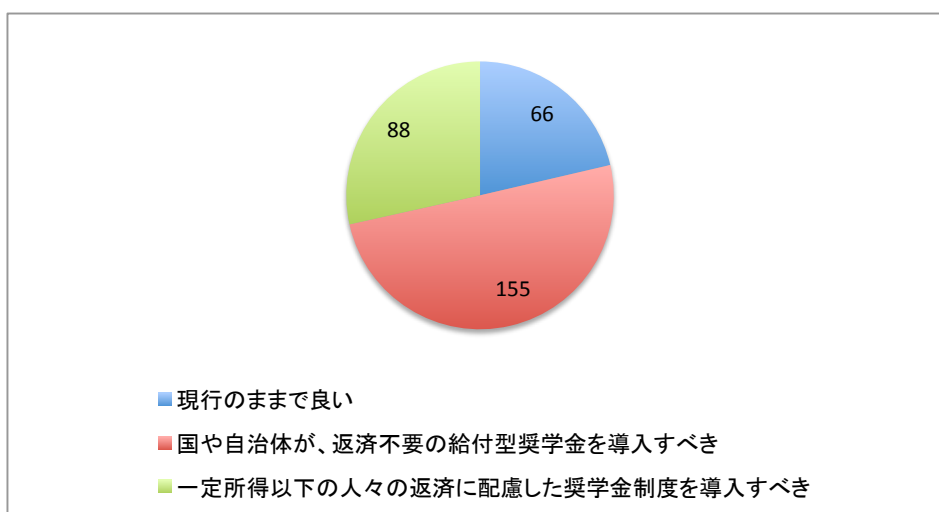
→驚くべきことに、学生時代のアルバイト収入を、「奨学金の返済に充てる」と答えた学生が 3 割強も存在した。上記「15」で、奨学金を借り入れているにもかかわらず、多額のバイト収入を得ている学生がいることが判明したが、これは将来の返済に備える学生がいることと関係していると考えられる。

17. 奨学金制度の借入れや返済条件について、どの程度理解していますか。下記からもっとも近いものを1つ選んでください。

奨学金制度を良く理解している=13名、それなりに理解している=70名、あまり理解していない=59名、全く理解していない=11名。

→日本学生支援機構は奨学金制度の周知に努力しており、一定の成果が認められる。ただし、ローン型の奨学金という性格から返済手続きが複雑となることは避けられない。そのため、半数程度の学生は奨学金制度を十分に「理解していない」。

18. 現在の奨学金制度について、どのように考えていますか。下記からもっとも近いものを1つ選んでください。



→これまで本アンケートにおいて学生生活の厳しさが浮かび上がってきたが、多くの学生は「返済不要の給付型奨学金」の導入を望んでいる。

19. 自由記述欄（一部抜粋）

- ・ 安定した職につけるかも分からないのに、卒業したと同時に借金返せと言われる毎日はイヤです。
- ・ 返済に何年かかるか不安。親には頼れないし迷惑をかけたくない。
- ・ もしも奨学金の制度が改訂されたら、今借りている自分たちにも適応されるのか知りたい。
- ・ 現在、奨学金を利用し、授業を受講できているが、将来安定した収入のできる場所に就職できるか不安である。そして返済できるかどうかは少し不安である。
- ・ ちゃんと返済していけるか不安。父がこの間全額払い終えたらしく、ずっとこの先も払い続けなければならないことを実感した。

- ・ もし自分が仕事につけなかった時の返済の対応が不安
- ・ 30代後半まで返済しなければならないと考えると、将来自分の子どもの為の習い事やレジャー費などに使うお金の余裕があるか不安である。
- ・ もっと給付型の奨学金制度を取り入れていくべき。日本の教育が充実しない。
- ・ 40歳近くまで返済が続くことへの不安
- ・ 利息ありの借入を行った場合、返済で100～200万円借入額と違ってくるといのは返済する上で大きな障害となる。
- ・ 返済のことばかりに気をとられて将来の具体的な計画を立てられない。学力社会のくせに大学へ行くのも大変な状況をつくっている。そんなに大学進学が大事な国なら返済しなくてよくて、負担がかからず誰にも夢をもたせた奨学金にしてください。
- ・ 親は「自分の子どもに借金をさせたくない」と強く言いながらも、仕方なく奨学金を借りなければ学べないというのが現状です。本当はもっとやりたいことがあるけれど勉強の時間のことを考えるとこれ以上アルバイトを増やすことはできません。
- ・ 奨学金という名の借金を学生に与えている。今の奨学金制度を見なおしてほしい。また、ちゃんと奨学金を返済できるのかとても不安である。
- ・ 利子がついていくので、きちんと返すことが出来るのか不安です。妹も大学に通っているのですが、どうしても奨学金を借りなければならないのですが、本当は借りたくないです。
- ・ 奨学金はある種の借金なので、将来結婚のことを考えると、すべて返済し終わったあとにしかしたくないと思ってる。